

文藝春秋 特別編集

この一冊で
安心できる!!

スーパードクター に教わる最新治療

2021・2022

2021年9月30日発売号に掲載



白内障・多焦点眼内レンズについて
中原院長が解説されています。



中原眼科

Contents

目次

白内障・多焦点眼内レンズ

白内障手術でよく見える目へ
多焦点レンズによる
満足度の高い治療を

中原眼科 院長 中原 将光

Medical Report **先進**眼科治療

先進の医療機器と
豊富な手術経験で
患者に寄り添う
理想の眼科医療を提供

中原眼科 院長 中原 将光

白内障・多焦点眼内レンズ

白内障手術でよく見える目へ 多焦点レンズによる満足度の高い治療を

加齢に伴い多くの人が罹患するといわれる白内障。クリアな視界を回復するには手術で個人の状態や希望に合った眼内レンズを選ぶことが大事だ。累計手術件数3万件以上、2020年度は3224件の手術を行った中原眼科の中原将光院長に白内障の手術や眼内レンズの選び方などについて最先端の話を伺った。



中原将光
中原眼科
院長

なかはら・まさみつ 2003年
浜松医科大学卒業。東京医科歯
科大学病院眼科の網膜硝子体
グループにて研修を積む。横浜
市立大学附属市民総合医療セ
ンターにて、網膜硝子体疾患の
診療に非常勤医師として勤務。
国際親善病院、県立足柄上病院
の部長を歴任。深作眼科副院長
等を経て、2021年4月中原眼
科を開院。日本眼科学会認定眼
科専門医。

多彩な手術経験が生きる 繊細な白内障手術

2017年の白内障の推定患者数（入院、外来）は9万800人で、その88・9%が65歳以上の方で占められている（厚生労働省…患者調査）。また発症者は50歳代で37・54%、60歳代で66・83%、70歳代で84・97%、80歳以上で100%との報告もある。つまり白内障は歳を重ねるにつれて増え、80歳を超えるとほぼ誰もが発症する病気ということになる。

白内障手術は、濁った水晶体を取り出し、代わりに人工のレンズを挿入する。眼内レンズにより、むしろ以前より良い眼になると言ってもよい。同時に老眼や乱視を治したり、近視や遠視の矯正をしたりすることも可能だ。

「日帰り手術も行われるようになった。そのことで、『白内障手術

は簡単な手術』と言われることが増え、そう思われる患者さんも多くいます。しかし、眼科の手術はミリ単位の切除などの繊細な技術が必要とし、少しでも手が震えれば手術がより一層難しくなるので、とても集中力を必要とします。ところが私は手術中に手が震えることはありません。従ってどんな難しい手術も可能な限り引き受けることができます」と答えるのは、これまで白内障、緑内障、難治性の網膜・黄斑疾患の網膜硝子体手術などを累計2万5千件以上行ってきた中原眼科の中原将光院長。2021年4月に開院したばかりではあるが、口コミやインターネットを通じて全国から多くの患者が来院する。また近隣の総合病院や眼科からの手術依頼が途切れることがない。

先進機器や意思疎通で 患者のQOVを高める

白内障手術は、手術が成功しても術後に不満を訴える患者さんが少なくない。「期待したとおりの見え方になっていない」といった声が多いという。これは手術で取り出した水晶体の代わりに挿入したレンズの選択に問題がある可能性が大きい。これを避けるために

は患者さんとの術前の意思疎通が欠かせない。

「白内障手術では、患者さんのQOV（Quality of Vision＝見え方の質）を、いかに向上させるかが最大の目的になると考えています。そのためには、患者さんのこれまでのライフスタイル、術後、どんなものを、どんな風に見たいと望んでいるのかを把握し、また選択する眼内レンズによつてどのように見えるようになるのか、そしてレンズに慣れるまで時間がかかる場合もある、といったことを患者さんに理解してもらい、治療法やレンズを入念に打ち合わせる必要があります。そうすることで患者さんの不安をとり除き、術後の見え方に対する不満は解消できると思います」

中原眼科では患者さんのQOV向上のために、例えば視力障害を防ぐことから普及が期待されている術式「ヘッズアップサージェリー」を可能にした3Dデジタル顕微鏡ARTEVO800を導入。また、低眼圧の手術で眼へのダメージや手術の痛み軽減を図る「センチュリオンアクティブセントリー」、硝子体手術で眼球を切開しゼリー状の組織を取り除く「コンステレーション®」ビジョンシス

多焦点眼内レンズは
生き方の視点で選ぶ

眼内レンズは保険診療の単焦点
眼内レンズと自由診療の多焦点眼
内レンズがあるが、見え方のパフ

心掛けて欲しいと、勧めている。

中原院長は患者さんが人生をかけてもいいと思えるクリニック選びの一助になればと、書籍『最高の白内障手術』(幻冬舎メディアコンサルティング刊)を上梓している。

受けることが大切であり、できれば様々な眼科治療の経験を持つ眼科医に出会うことを患者さんには心掛けて欲しいと、勧めている。

対策を高次元で実施している。「白内障手術はどこでも受けられますが、同じではありません。患者さんに最高の技術を提供し、最高のパフォーマンスで応えてくれる眼科医を見つけることが大切です」という。自身も眼科医として、これまで難治性の網膜硝子体手術や、角膜移植など眼科領域で幅広い手術を行ってきたが、そうした経験が白内障手術の技術を上させてきたと考えている。中原

新の5焦点レンズから実績のある
 レンズまで20種類近い多焦点眼内
 レンズを揃え、患者さんの「見え
 方」の要望に応えるなど、様々な
 対策を高次元で実施している。

オーマンスは多焦点眼内レンズの方が優れている。

「多焦点レンズのメリットは、ピントの合う範囲が広くなり、患者さんのライフスタイルによつては眼鏡が不要になるか、使う頻度や時間が減ることです。レンズの寿命は素材にもありますが一生ものと考えられています。それだけに『ライフスタイルをベースに選ぶ』『手術経験が豊富な医師に相談する』『費用だけで決めない』ことが後悔しない多焦点眼内レンズ選びのポイントになります」

現代のシニア世代はアクティブシニアなどと呼ばれ活動的に過ごす方が増えている。現役で仕事を続けている方もいれば、第二の人生を趣味や社会貢献活動で充実させる方もいる。「眼内レンズは費用面だけでなく、長い人生をどう過ごしたいかという視点で後悔しないように選ぶべきでしょう」と中原院長は語る。

子供のころにハサミが目には刺さって70年間失明状態にあった患者に、中原院長は手術で光を取り戻させた経験があるという。「患者さんにとって視力を守る最後の砦になりたい!」という思いが氏の眼科医としての強力なモチベーションになっている。

写真提供：中原眼科

写真提供:中原眼科

最新の「白内障手術・多焦点眼内レンズ」について解説している。



テム」、患者がリラックスして手術を受けられる笑気麻酔装置などの先進医療機器も積極的に導入。機器以外では、自由診療同様に保

險診療においてもオーダーメイドの手術が出来るようにチェックシートを設けて患者さんの要望にできる限り応えている。さらに、最

白内障、網膜硝子体などの治療を行う先進機器



院長 中原 将光

なかはら・まさみつ／2003年、浜松医科大学卒業。東京医科歯科大学病院眼科の網膜硝子体グループにて研修を積む。横浜市立大学附属市民総合医療センター、深作眼科副院長等を経て、2021年4月中原眼科を開院。日本眼科学会認定眼科専門医。

例えば白内障手術は一般的には片目で20分程度要すると言われているが、中原院長はレーザー治療器を使うことなくわずか3〜4分で終える。「手術時間は、丁寧で綺

理想の医療の場を求め
東京・町田に開院

中原眼科・中原将光院長は、勤務医時代を通じて、あらゆる眼科の手術に磨きをかけ、自分が思い描いた患者さん優先の治療を実現するために、2021年4月に同院を開院した。自らの技術をフルに活かし、患者さんに最善の医療を提供するために高精度な医療機器を導入。患者さんを疾患から救い、一人ひとりの希望を実現するという、理想の医

療を造り上げるために、大きな一歩を踏み出したのだ。中原院長の累計手術件数は約2万5千件（2003〜2021年現在）。この1年間（2020年度）の手術件数が約3000件と言う中原院長の実績は、眼の疾患を抱える人たちの間で、すでに口コミやネットなどを通して知られており、開院と共に全国から多くの患者さんが来院している。また、近隣の総合病院や開業医からの治療や手術の紹介、また緊急の治療要請にも対応している。

麗であれば、より短い方が術後の感染症や炎症の危険性を低く抑えることができます。患者さんの負担も大幅に軽減されます」と中原院長。この患者ファーストの姿勢と、確かな「腕」に多くの患者さんからの信頼が寄せられている。さらに執刀では通常の金属メスではなくダイヤモンドメスを使用する。「ダイヤモンドメスは切れ味が良く、扱うために高い技量は必要だが、思い通りの切り口を作れるため理想の手術に不可欠です」と語る。こうした先進の手術機器の活用とこれまでの豊富な症例が、手術時間の短縮や安全かつ確かな治療に繋がっているのだ。

**手術の質を上げるために
先進の医療機器は不可欠**

中原眼科がいま力を入れているのが「ヘッズアップサージェリー」と呼ばれる術式だ。専用の偏光眼鏡をかけ、3D4K有機ELという高画質の画像で映し出される患部を、モニターで見ながら手術を行うというもの。この手術で活躍するのがAR TEVO800という世界初のデジタルヘッドアップサージェリー内蔵型の顕微鏡だ。「術野を明るくすることは手術においては当たり前ですが、こと眼に関しては、手術中に強い光が当たると網膜光障害（視力障害）が起きます。そのため光を通常の25%にしても十分な情報を得られる先進の顕微鏡を導入しました」と語る中原院長。通常の顕微鏡が5台以上購入できるほど高価な機器だが、満足いく手術結果を実現するためには



中原眼科

〒194-0013 東京都町田市原町田6丁目19-14
電話 042-651-7171
<https://www.nakahara-eyeclinic.com>



**先進の医療機器と豊富な手術経験で
患者に寄り添う理想の眼科医療を提供**

「高度で正しい治療をすべての患者さんが受けられる環境を整えたい」という切なる思いから、2021年4月に東京・町田市に開院した中原眼科。眼科手術の中でとくに難しいとされる網膜硝子体手術をはじめ、白内障、緑内障、黄斑変性治療、角膜臓器移植など様々な治療を手がけている。





手術室／デジタルヘッドアップサージェリー内蔵型の顕微鏡「ARTEVO800」や低眼圧で手術が行える「センチュリオン アクティブセントリー」、硝子体手術で活躍する「コンステレーション®ビジョンシステム」など先進機器を備え、中原院長が理想の眼科治療を行う手術室。

あらゆる患者の希望を聞き 最善の治療に努める

中原眼科を訪れる患者さんで最も多いのが白内障患者だ。自由診療に

欠かせないという。そのほか、中原院長が開院に合わせて導入した先進機器としては、白内障手術の折に、従来の機器よりも低眼圧で手術が行え、眼へのダメージ軽減、手術の痛み軽減を図る「センチュリオンアクティブセントリー」や、硝子体手術で眼球を切開し組織を取り除く「コンステレーション®ビジョンシステム」、患者の不安を解消しリラクゼーションとして手術を受けられる笑気麻酔装置などがある。できるだけ、いまある最良の機器を使用し、最良の医療を提供することを信条としている。

において患者さんの要望に応えるのは

一般的な動きだが、中原眼科では自由診療と同様に保険診療の手術においてもオーダーメイドの治療を行う。手術に際して患者さんに「見え方」

「麻酔方法」「切開方法」についてチェックし要望をできる限り叶える。

例えば、「見え方」としては何を重視して見たいのか（車の運転、景色

テレビ、パソコンなど）、具体的に

見たい距離（5m〜30cm）、見たい距離の優先順位（どの距離を優先する

のか）など。

「麻酔方法」としては点眼麻酔、点眼麻酔＋笑気麻酔、点眼麻酔＋静脈

麻酔の選択ができ、痛みを和らげるだけでなく気持ちよさを落着かせる麻酔も選ぶことができる。

「切開方法」としては角膜切開、角膜輪部切開、強角膜切開の選択と、

傷口の大きさも選べるようになって

いる。もちろん選択項目それぞれのメリットとデメリットの説明も丁寧

に行い、納得してもらえようように心がけているという。

「白内障手術の結果に満足していた

だくには、事前に患者さんの症状の把握をすることはもちろん、患者さ

んの性格からライフスタイルまで理解した上で、手術方法や眼内レンズのご提案をすることが大切です。このやりとりがないと手術自体は成功

多焦点眼内レンズはレアなもの まで約20種類用意している



インテンシティー

世界的に高評価を得ている5焦点眼内レンズ。遠方、遠中、中間、中近、近方に焦点があり、手元から遠景まで日常のあらゆるシーンをクリアに見ることができる。グレアやハローといった光のギラつきなどの問題も抑えられている。

テクニスシナジー

近方視力調整段階がきめ細かく用意され、生活パターンに合わせた選択ができる。また夜間の光のにじみを軽減するなどの改善が施された2焦点+EDOF（回折現象を利用して遠くと近くに焦点を配分したレンズ）のレンズ。

一生ものの眼内レンズ 後悔しない選択を

白内障手術の成否には眼内レンズ選びが大きく関わってくる。眼内レンズには保険診療で決められた「単焦点眼内レンズ」と、選択肢の多い自由診療の「多焦点眼内レンズ」がある。2020年4月から多焦点眼内レンズを用いた白内障手術は、選定療養の対象となり多焦点眼内レンズの費用のみ自己負担で、手術などにかかる費用は保険診療で賄えることになった。

「高齢化社会が進む中で元氣なシニアが増加し、いつまでもクリアな視界を確保したいという要求は当然強くなってきました。当院では患者さん

一人ひとりの病状や個体差にも対応できるように、新しく開発されたものから、実績のあるものまで多焦点眼内レンズを約20種類ほどそろえています」と語る中原院長。

同院の多焦点眼内レンズでは、5カ所に焦点があり、日常のあらゆるシーンでの活動をカバーできる「インテンシティー」、遠方と近方に焦点が合い、夜間に光の周りにリングが見えたり、まぶしく見えたりするハローやグレアという現象を抑えた「テクニスシナジー」の人氣が高く、その他3焦点や遠方から近方までスムーズに見ることのできるレンズ、近視や遠視、角膜乱視の強い方にも適応できるレンズなども取りそろえている。

「眼内レンズは一度入れたら一生ものになります。手術後に後悔しないようにどんな要望でも伝えてください。今ある最も好適と思われる医療で患者さんをサポートします」と中原院長は微笑みながら語った。

著書紹介



中原 将光 (著)
幻冬舎メディアコンサルティング 刊

『スゴ腕サージャンが解説！ 最高の白内障手術』

大事なのは QOV (Quality of Vision)
＝見え方の質。眼科手術のプロが語る最先端の技術と理念。



手術症例の経験豊富なドクターが最前の治療をめざして

**累計手術件数
2万5千件以上**

2021年8月現在

**豊富な
眼内レンズから選べる
オーダーメイドの
白内障手術**

**難治症の網膜・
黄斑疾患の
網膜硝子体手術**



中原眼科

〒194-0013 東京都町田市原町田6丁目19-14 TEL.042-851-7171

<https://www.nakaharaganka.com>